

質問

ご自身の役柄のどんなところに共感されますか?
エピソードがあれば教えてください。

25日
カルメン役

糸谷 栄里子
Kojitani Eriko

自由に生きるということはどのような時代においても難しい。心のままに生きようとしても世間から批判を受けたり否定されてしまう。固定概念にとらわれ、「あるべき姿になれない」ことで苦しむ人も多い。しかしカルメンは他人の価値観には決して屈しない。信念を持ち、自分自身の意志を貫くことを自由と信じ、ひたすら真っ直ぐに生きている。

屈しそうな時には私の心の中でカルメンがこう叫ぶ。
Libre elle est née Et libre elle mourra.(自由に生き、
自由に死ぬ)、と。カルメンは私を強くしてくれる。私も彼女のように自分を信じ生きていきたい。



25日
ミカエラ役

中西 千尋
Nakanishi Chihiro

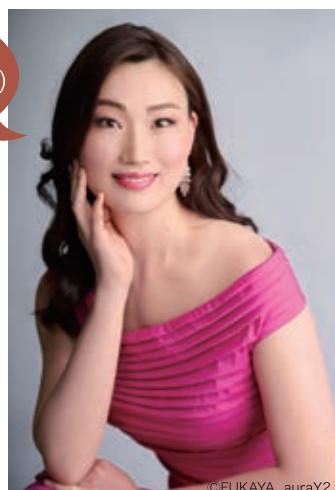
「好きな人が他の女性に夢中になっている。私とはまったく違うタイプの女性で、彼は悪の道に引っ張り込まれている。私が引き戻さないと!でも、私には敵わないんじゃないかな?会うのが怖い。でもこの目で見てみたい」。諦めきれない恋心、使命感、嫉妬、恐怖などが複雑に混ざり合い、自分の中に強い感情が生まれ揺さぶられる。経験したことのない感情に突き動かされるというのは共感できる部分です。ミカエラに自分を重ねながら演じたいです。



26日
カルメン役

十合 翔子(客演)
Sogo Shoko

カルメンという女性には妖艶な悪女、というイメージがあるように思います。しかし私は、彼女は自分を非常に冷静かつ客観的に捉えている一面があるように感じています。皆が自分に求める姿をよく理解しており、そのように振る舞う。自分の弱さを知っているが故に、それを周りに見せない強さがあった。そんな等身大の女性なのではないでしょうか。ただ、彼女の卓越した部分は、どんな結果を招いたとしてもすべては自分の選択である、そう言い切ることであり、その強い意志には感服せざるを得ません。



26日
ミカエラ役

奥田 敏子
Okuda Satoko

直感的には彼女の内にある葛藤、複数の思いがせめぎ合っているのを感じます。そのためミカエラとして歌っている時に、言葉通りの意味以上に、彼女自身も気付いていない深い層心理や目的を垣間見る気がします。

私も色々な感情や意図から言葉が出てきますが、振り返ってみると別の感情や欲求が潜んでいます。そういう部分で彼女に共感しますし、それを突き抜けるような強靭さも同時に感じています。ご来場の皆様にもそれらを追体験していただけるよう務めたいと思います。



質問

もし、カルメンのような女性に出逢ったら
惚れてしまうと思いますか?どんなアプローチをされますか。

25日
ドン・ホセ役

小餅谷 哲男
Komochiya Tetsuo

当然、本能的に惚れ
てしまいます。ホセよりももっと野暮に迫って、
跡形もなく焦げて無くなってしまいます。

もう一言!

以前、故栗山昌良先生の演出で「トスカ」のカバラドッシを歌っていたとき、通し稽古でふと思いついて、ホセのように歌いました。稽古が終わって栗山先生の開口一番「カバラドッシね、ホセじゃないんだよ」とダメ出し。「カバラドッシは運命に立ち向かって滅びるんだ! ホセは運命に流されて滅びるんだ!」と。ホセを演じる度に運命に流される人間を演じてきました。ホセは幕が進むにつれて衣装もボロボロに、精神もズタズタに。そんなホセでもカルメンを愛していたんだと伝われば良いと思っています。



25日
エスカミーリョ役

西尾 岳史
Nishio Takeshi

カルメンのような女性! 自由奔放な絶世の美女に惚れるかどうかはわかりませんが、もし自らが惚れたなら、相手の女性はみんなカルメンに見えるはずです。惚れたが最後、人は恋愛をするとチンパンジー並みに知能が下がるらしいので、アプローチは当然スマートなものではなく、エスカミーリオの様に気丈に振る舞える訳もなく、ホセの如くズタボロになることに間違いはありません。そもそも恋愛がどの時代でもうまくいくことが難しいことは明瞭です。

『愛の妙薬』でもあれば別ですけどね。(苦笑)



26日
ドン・ホセ役

水口 健次
Mizuguchi Kenji

どうでしょうね(笑)
基本的には『惚れない』ですが、オペラのストーリーと同じく『惚れてしまう』事になるのかかもしれませんね。もうそうなつたら最後でこちらからどうやってアプローチをかけるかなんか関係なく、ホセ同様ボロボロにされる気がします。マノン・レスコーやカルメンの様な女性は、どんな男にも決して独り占めすることのできない自由奔放な性格の持ち主で、デ・グリューやドン・ホセにもどうすることもできない『ファム・ファタル』ですから、僕ではとても無理でしょう(笑)



26日
エスカミーリョ役

谷本 尚隆
Tanimoto Naotaka

今回の出演者も含めて沢山の魅力的な女性と出会いましたが、カルメンのような女性とは出会ったことがないです。未知です。未知との遭遇です。まず、惚れたとしましょう。未知へのアプローチですからアイディアは浮かびません。楽譜を開き、エスカミーリョへ相談です。「きみ、人生はショーダと思わないかい。この広い世界で、私と素晴らしいステージを作り上げないか。さあ、情熱的な赤いマントをひるがえし、ともに空へ舞い上がろう! これで彼女は君のものだ! ハツハツハツ」…無理!!



関西二期会 第96回オペラ公演

「魔笛」

闇と光の端境を縫い合わせた
笑いを振りまく パパゲーノの見事な演唱



25日公演より



26日公演より



26日公演より

愛こそがこの世の対立を和解させうるものと哲學的に説いたのは、若き日のヘーゲルだ。そのヘーゲル(モーツアルトの音楽を高く評価した)が後に展開した独自の弁証法、それを進化させたマルクスの社會主義思想の根底に、フリーメイソンのデュアリズム(二元論)の原理というものを見る向きも世にはあることだろう。

本公演の演目は、そのフリーメイソン思想を色濃く反映したモーツアルトの「魔笛」(歌唱はドイツ語・台詞は日本語)。高岸未朝による演出のもと、闇(黒)↔光(白)、自然(動物)↔人工(人間)といったデュアリズムが、照明や装置などによって実にくっきりと表された舞台だった。とりわけ、社会的な旧世界(体制)と新世界(体制)の対照を象徴するように、夜の女王側のキャラクターたちは古風な時代的衣装、ザラストロ側のキャラクター(仏教的な輪袈裟風のものを首に掛けた)は現代的な衣装であった点や、そのザラストロ(どこかレーニンを思わせるふしもある)を指導者とする民衆(工場作業服に身を包んだ労働者)たちの姿に、ある種の社會主義的な一侧面がそこはかとなく漂うなど、この舞台ならでは

の特異性と言うべきものが視覚的に強く感じられた。

Ken Yanagisawa(柳澤 謙)指揮する日本センチュリー交響楽団の精緻な演奏を得て、試練を越えて辿り着く眞の愛の境地を瑞々しく歌ったタミーノ(角地正直)やパミーナ(奥田敏子)。さらわれた娘パミーナへの愛ゆえ激情を示した夜の女王(松浦 優)や、家長的威厳を巧みに表したザラストロ(武久竜也)らの存在感も実に印象的だった。時事的なネタなどを織り込んだ日本語の台詞で笑いを振りまいたトリックスター的なパパゲーノ(小玉 晃)の演唱は、このオペラの闇と光の端境を明朗に縫い合わせ、心温まるメルヘンティックな装い作りに見事貢献した。

(2月26日所見:村田英也)

(写真:早川壽雄)

2023年2月25日(土)、26日(日)

兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール

指揮: Ken Yanagisawa / 柳澤 謙

演出: 高岸 未朝

管弦楽: 日本センチュリー交響楽団



第20回サロンオペラ
「ジュリオ・チェーザレ」



喜怒哀楽の情念を直截的に表現
バロックオペラらしい技巧の数々



17日公演より



17日公演より



16日公演より

GIULIO CESARE

紀元前のエジプトを舞台とした18世紀の大家のオペラが21世紀に蘇った。ここに登場するのは喜怒哀楽や愛憎など、現代に生きる人間と同じさまざまな情念をもつ人間たちである。

楽譜通りにやれば4時間にも及ぶ大作だが、今回は約半分の長さに切り詰められ、管弦楽も一台のピアノにまとめられた。舞台装置もまさに最小限であり、衣装も決して豪奢ではないが、役柄にふさわしい品位があった。指揮者をはじめとするスタッフ一同の労苦は察するに余りある。

小さいホールなので、歌手陣の役者としての演技の冴えも手に取るようにわかる。題名役ジュリオ・チェーザレやクレオパトラら王族には冒しがたい気品と威厳があり、臣下の者には武人らしいきびきびとした立ち居振る舞いが備わる。夫の無残な最期を目の当たりにして悲嘆に暮れ、絶えず死を想うコルネーリア、母を支えつつ父の復讐の機会を伺う好青年セスト、コルネーリアへの邪悪な恋情を隠そうともしないアキッラ、悪の権化トロメーオなどの人物描写もまことに堂に入ったものだ。二人の悪役は舞台上で印象的な死を迎える。悪に加担したアキッラは臨終に際して前非を悔いたの

か、将軍の印章を敵方に委ね、この復讐劇の元凶トロメーオも、最後の瞬間まで王者としての威儀と矜持を失わずに品位を保ったまま死んでいく。

もちろんソリスト陣の歌唱も本当に見事である。好敵手ポンペーオの非業の死を知って義憤に駆られるジュリオ・チェーザレの決然としたアリアや、静謐で心に染み入るようなクレオパトラの「この胸に息のある限り」など、すべてが実際に素晴らしい。バロックオペラらしい技巧の数々も、それ自体が目的ではなく、喜怒哀楽などの情念を直截的に表現するためにあるのだと、あらためて知らされる。

最終場では、死んだはずの登場人物も一緒になって八人で仲良く大団円を迎えた。そして客席も、舞台と近いサロンオペラ独特の親密で濃厚な時間を、心から楽しんでいた。

(5月17日所見、北川順一)

(写真：早川壽雄)

2023年5月16日(火)、17日(水)

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

指揮：袖岡浩平 ステージング：奥野浩子 ピアノ：前川裕介

谷 ゃんの 企画・制作 デイリーライフ

⑯ あらためて「出前」の勧め

小学2年だったか、祖父が事故に遭った。幸い命は取り止めたが障害が残り、自宅療養することになった。医師が月に何度か来て、胸に聴診器を当てる。看護婦が手首に布を巻き付け、ポンプをスコスコ動かすと血圧計の水銀が上下する。医師の革鞄の側でそんな仕事を見つめていた。この「往診」は皆さん、ご存じだろう。

母の認知症が進んだ折は、ケアマネジャーや理学療法士、ヘルパーといった様々なプロフェッショナルが日替わりで通ってきた。足腰が弱り、病院に行けないお年寄りのための「出前」である。介護は父が主に担っていた。ただ高齢だったので、「出張サービス」には随分助けられた。

けれども、祖父や母が元気な頃、或いは介護する父が嗜んでいた能楽や歌舞伎の観劇、クラシック音楽は生で楽しめなくなってしまった。アーティストの出前はなかったからだ。少し無理をし、父を劇場に連れて行ったこともあるが、本人も周囲の観衆も落ち着かない様子だった。

トシを取ると、人は何らかの障害を持つ。若くても障害を持っていると、似た状況になる。心身の障害以外にも経済的に苦しくてチケットを買えなかったり、田舎住まいでの公演が身近に行なわれなかったり。劇場に行きづらい人は少なくない。保護者が実演芸術に興味が全くなく、その子たちも舞台を見たい気持ちにならない(なれない)循環が出来てしまったりもする。

そんな人々を対象に、医師ら同様、オーケストラなどの実演組織やホールが「出前」をするのは重要な活動といえる。特に、その実演組織が国や県、市から財政支援を得ている場合は尚更。国民・住民から徴収される税金の一部を、芸術に使わせてもらっている以上、自分たちの仕事、つまり演奏や演技の一部を、障害の有無や経済力の多寡、劇場への物理的な距離や家庭の文化環境などに関係なく、納税者に還元するのは道理である。誠に古典的な、でも大切な、文化経済学のテーマである。

大学の授業でベルリンフィルなど世界一流の芸術組織が、医師の往診にあたる出前活動(アウトリーチと呼ばれる)に取り組んでいる映像を見せ、この話を学生にすると



認知症の人々がプロ演奏家と共に歌った、英ウイグモアホールの出前事業「Music for Life」の30周年記念事業のコンサート風景
©Wigmore Hall URL: <https://www.wigmore-hall.org.uk/learning-and-participation/music-for-life> . In courtesy the Wigmore Hall, London

目を輝かせる。往々にして、芸術の深遠な世界に閉じこもりがちな興味関心が、一気に広がるのだ。活動場所は、劇場だけに限られている訳でない。それに気付き、もっと直に人々の役立てるという直感が働くのかもしれない。彼ら・彼らのワクワクが波になり、教壇にヒタヒタと押し寄せてくる感さえする。そんな反応である(正直、毎回こんな授業ばかりではないですがネ)。

「出前」の行き先は、病院や学校、福祉施設など。個人の家に出向く例は、日本では東京文化会館などを除くとまだ多くはないようだが、ロンドンの名門「ウイグモアホール」では30年前から、認知症の個人宅に生演奏を届ける事業「Music for Life」に取り組み、この2月に記念行事を行った。

出前の意義はアーティストにも大きい。劇場やホールとは異なる、鑑賞者との身近な空間で気を配り、語り掛け、即興も交え演奏する。その触れ合いが「一人の人間」としての成長を促す。報酬も一定程度もたらされるし、実演芸術への社会的評価を高める契機にもなる。

劇場やホールは、実演芸術の拠点には違いない。ただ舞台中心の考えに捕らわれ過ぎると、社会的には至らない部分も出てくる。アーティストの側から、「民」の中に積極的に入っていくべきだろう。最初は、小ぢんまりで十分。実践を、ぜひとも積み重ねて頂きたい。

(谷本 裕 沖縄県立芸術大学教授、関西二期会顧問)

舞台芸術を支える裏方さん



舞台美術家 松生絢子さん

『カルメン』の舞台美術を手掛け
る、松生絢子さんをご紹介します。

——舞台美術家を目指すことにな
ったきっかけを教えてください。

演劇が好きになったのは、宝塚が
好きな母の影響が大きかったと思
います。舞台のセットに興味を持っ
たのは、幼稚園の頃から「絵を描いて生きていきたい」と思
っていたから。高校生の頃に、「舞台美術家になりたい」という風
に繋がった瞬間がありました。

——演劇の中でも、オペラの面白さはどんなところに感じら
れますか。

オペラでは、例えば昔のセヴィリアの町をそのまま再現する
というよりは、「どんな普遍的なメッセージがあるのだろう」と
演出家が読み取り、時代や設定を置き換えることがあります。
一つの同じ作品でも、演出家や美術家によって表現方法が違
うところが一番面白いなと思っています。

——今回のデザインでは、どんな点を工夫されましたか。

演出家の三浦安浩さんからは、男と女の“対立”から引きお
くる悲劇を描きたいというコンセプトをいただき、2つのパネル
でその対立構造を表していくことになりました。そこで私が提
案させて頂いたのは、悲劇の象徴として、パネルに銃の弾が



2022年、舞台美術を手掛けた「舞台 少女ヨルハver.1.1a」で、
第一回伊藤薫記念賞の本賞を受賞

撃ち込まれたような穴を空けるということでした。今の世界情
勢にも当てはまりますが、戦争や対立の爪痕をデザインに加え
たいと思います。

——松生さんの舞台美術は、心に残る作品が多いです。

関西二期会さんとは何回か一緒に仕事をさせて頂いていま
す。前回の『ドン・ジョヴァンニ』のときも、「マネキンを何体も置き
たい」という提案に、「やつたらいいじゃん」みたいな感じで、いつ
も自由にチャレンジさせて頂いているので楽しいです(笑)。

(取材・文 金子真由)

プロフィール

劇団四季で数々の作品のデザインを手がけ、退団後は渡英し、
ヨーロッパ各地のオペラハウスで舞台美術の仕事に携わる。現在
は、日本各地のオペラ、バレエ、ミュージカルなどのデザインを手
掛けている。

公益社団法人関西二期会賛助会 入会のお願い

関西二期会は、オペラを中心とした音楽活動及び真摯な芸術活動を通じ、
社会に夢や潤いを与え続けます。関西二期会の活動にご賛同いただける皆様に、
法人・個人を問わず、何卒賛助会員としてご入会下さいますようお願い申し上げます。

賛助会員ご芳名

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
株式会社浅沼組
荒川化学工業株式会社
稻畑産業株式会社
株式会社エフエム大阪
株式会社大阪共立
大阪シティ信用金庫
学校法人大阪成蹊学園
公益財團法人才リックス宮内財團

特別会員：上野製薬株式会社

京セラ株式会社
倉敷紡績株式会社
鴻池運輸株式会社
学校法人神戸女学院
コーナン建設株式会社
サラヤ株式会社
サントリーホールディングス株式会社
三宝電機株式会社
住友電気工業株式会社
ダイキン工業株式会社
大日本除虫菊株式会社
タカラベルモント株式会社
株式会社竹中工務店
株式会社テクノープル
医療法人二村耳鼻咽喉科ボイスクリニック
株式会社ハートス
阪急電鉄株式会社
株式会社丸善
ミズノ株式会社
株式会社美々卵
森下仁丹株式会社
株式会社モリタ
ロイヤルステージ株式会社
(他、匿名1社)

我孫子 昌三
石塚 克哉
伊藤 熟
岩佐 益男
江崎 正道

遠藤 秀夫
門屋 淳子
藏田 由美子
小谷 公穂
小八木 規之

佐野 吉彦
杉野 守彦
辰野 勇
田中 義雄
藤堂 稔之

中村 雅夫
西田 俊夫
仁禮 直之
林 律
早嶋 茂

樋口 信治
藤友 俊雄
山口 真子

(令和5年9月末現在 敬称略)

新入会員の紹介

森 由貴 Yuki Mori (ソプラノ準会員)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。ヘンデル「メサイア」、J.S.バッハの教会カンタータ作品のソリストを務める。第22回姫路パルナソス音楽コンクール入賞。第13回神戸新人音楽賞コンクール声楽部門優秀賞。第27回KOBE国際音楽コンクール声楽C部門奨励賞。声楽を、西垣千賀子、島崎智子の各氏に師事。啓明学院中学校・高等学校教諭。



中島 康博 Nakashima Yasuhiko (テノール準会員)

大阪芸術大学卒業、同大学院博士前期課程修了。同大学院博士後期課程単位取得退学。第29回奏楽堂日本歌曲コンクール歌唱部門入選。文化庁主催、東アジア文化都市根幹事業、開催都市奈良にてオペラ「遣唐使・名も無き民のオマージュ」主人公葛井真成を演じ好評を博す。なわて音楽プロジェクト実行委員 なわて混声合唱団 団長兼ヴォイストレーナー等、合唱指導も行っている。



スケジュール 2023-2024 ◆2023年9月現在 (主催公演、当会が後援する公演・コンクール)

9 September

29日(金) 19:00
第32回日本歌曲の流れ～中田喜直 生誕100年～
兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
出演:石井浩子 / 津田基子 / 西田想人美 / 西山加奈子 / 沼田葉子 / 畠田弘美
別所香穂 / 矢内絵利子 / 呂玉祐子 / 藤井零治 / 古川正巳 / 藤村匡人
ピアノ:今岡淑子 / 小林美智
公演監督:篠原美幸

29日(金) 14:00
田村かよ子&田村香絵子ジョイント・リサイタル
伊丹アイフォニックホール メインホール
出演:田村かよ子 / 田村香絵子

10 October

9日(月・祝)
日本トスティ歌曲コンクール2023 最終審査
秋篠音楽堂

17日(火) 19:00
第32回イタリア歌曲の流れ イタリアの風景Vol.6～出逢い～
兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
出演:大河寿美子 / 小倉篤子 / 小澤聖子 / 荻田夏子 / 川中恵子 / 桐山由香 / 中野綾
野々村瞳 / 松下弥生 / 安井裕子 / 高岡友美 / 神田裕史 / 西口浩二 / 根木滋
古川正巳
ピアノ:小林聰子 / 關口康祐
公演監督:斎藤言子

21日(土) 16:00
君想ふコンサート～重松みかさんを偲んで～
あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール
出演:浅井順子 / 芦原昌子 / 雜賀美可 / 西垣千賀子 / 畠田弘美 / 西村薰 / 西垣俊朗
伊藤正 / 片桐直樹 / 西尾岳史

11 November

23日(木・祝) / 12月3日(日) / 同月10日(日)
『第10回あおによし音楽コンクール 奈良』本選
いかるがホール

25日(土) 16:00 / 26日(日) 14:00
第97回オペラ公演 歌劇『カルメン』
吹田市文化会館メイシアター大ホール
出演: [25日] 糸谷栄里子 / 小餅谷哲男 / 中西千尋 / 西尾岳史 / 山咲響 / 片桐直樹
野々村瞳 / 岸畑真由子 / 中野嘉章 / しまふく羊太
[26日] 十合翔子(客演) / 水口健次 / 奥田敏子 / 谷本尚隆 / 東平間 / 武久竜也 / 田村香絵子
名島嘉津栄 / 中野嘉章 / 山本欽也
指揮: ギード・マリア・ギーダ 演出:三浦安浩
管弦楽団: 大阪交響楽団
公演監督: 米田哲二

11月28日(火) 19:00

三井ツヤ子 メゾソプラノリサイタル
京都府民ホール アルティ
出演:三井ツヤ子

12 December

9日(土) 12:00 / 16:00
スペシャルクリスマスオペレッタ
J. シュトラウスⅡ世『こうもり』全三幕
京都府民ホール アルティ
出演:中尾恭子 / 松尾知佳 / 森川華世 / しまふく羊太 / 瀬田正巳 / チョン・ウォノ
山本欽也 / 服部英生 / 萬田一樹 / 油井宏隆

16日(土) 14:00

2023グランドオペラフェスティバル in Japan 歌劇「カルメン」
岡山芸術創造劇場 ハレノワ大劇場
出演:糸谷栄里子 / 小餅谷哲男 / 中西千尋 / 萩原寛明 / 山咲響 / 片桐直樹 / 野々村瞳
岸畑真由子 / 服部英生 / しまふく羊太
指揮:鈴木恵里奈 演出:三浦安浩
管弦楽団:日本センチュリー交響楽団

24日(日) 14:30

最きょうの3人より愛を込めて
兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
出演:浅井順子

2024.1 January

11日(木) 19:00
フレッシュコンサート2024 ～オペラアリアと歌曲のタベ～
兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
出演:遠藤映理 / 北出はづき / 黒田志帆 / 小林瑠那 / 櫻本麻衣 / 別所香穂
保坂江利子 / 森由貴 / 安川陽菜 / 山下優子 / 山本舞 / 吉本朱里 / 大上晃史
ピアノ:碇理早 / 須山由梨
公演監督:小餅谷哲男 / 鳥山浩詩

21日(日) 14:00

2023グランドオペラフェスティバル in Japan 歌劇「カルメン」
あきた芸術劇場ミルバス
出演:糸谷栄里子 / 水口健次 / 奥田敏子 / 谷本尚隆 / 東平間 / 武久竜也 / 田村香絵子
名島嘉津栄 / 中野嘉章 / 山本欽也
指揮:鈴木恵里奈 演出:三浦安浩
管弦楽団:バシフィックフィルハーモニア東京

3 March

10日(日) 14:00
関西二期会 オペラコーラスシンガーズ 第12回演奏会
東大阪市文化創造館小ホール
出演:松尾知佳 / 青砥純司 / 大上晃史 / 山咲響